

2005年11月20日

Laboratory Seminar



私のゼミを紹介します。

加藤智明さん

東京の風物の写真から社会学のテーマを読み取る研究をしている文理学部の後藤範章教授(都市社会学)ゼミナールが、第1回「東京」を観る、「東京」を読む。展を11月22日から文理学部百周年記念館で開く。代表の加藤智明さん(社会4)に活動ぶりを聞いた。

昨年まで1年間桜麗祭でゼミのテーマ「東京」の展示会を開

文理・後藤範章ゼミナール

1枚の写真を社会学の見地から研究

いていたが、今年はさまざまな人に見てもらおうと独自の企画を考えました。調査は8月上旬から始めました。撮影した約350点の写真の中から、23枚を厳選。1枚1枚の写真を社会学の見地から検討しました。

一見普通の写真でも、調べてみると身の回りのテーマを考える材料になります。例えば、渋谷のセンター街で座っている若者とそばを無関心に通り過ぎる通行人を比較すると、実は両者が本質的に似ていることに気が付きます。両者の共通点は「他人をまったく気に留めない」という点にあり、センター街は広場

であり空間でもあるという二面性を持ち合わせた場所だという事実が浮かび上がりました。何気ない一面でも社会学の「センス・オブ・ワンダー(何かを不思議に感じる力)」で見ると、違って見えます。

大切なことは「トライアル・アンド・エラー(試行錯誤)」です。多くの人に見てもらいたくて、新聞社や商店街に協力を要請する文書を書こうとしたのですが、不十分な内容だったのでも、何度も書き直し、ようやく完成させました。失敗を乗り越えて自分を成長させることが大切だと感じました。



展示する写真について話し合

創設年度	1994年
ゼミ生数	4年生21人・3年生22人
専門分野	都市社会学、社会調査論 集合的観察写真法
活動日	毎週月曜3限~話し合いが終わるまで
年間行事	選抜試験、懇親会、タウノウATCHング、合宿、観察学会ニュース発行、フイールドワーク、展示会
主な調査	現地でインタビュー、参与観察、非参与観察
ホームページ	http://www.chs.nihon-u.ac.jp/soc_dpt/ingotchi/tokyo/

道路でありながら広場